

平成28年度

教育に関する事務の管理及び執行の  
状況の点検及び評価の結果報告書  
(平成27年度事務事業対象)

平成28年11月  
宇土市教育委員会

## 事業名一覧

	事業名	担当課	ページ
1	学校一般経費 ICT 関連経費 (H26経済対策分)【繰越】	学校教育課	4
2	多子世帯給食費補助事業 (H26経済対策分)【繰越】	//	6
3	一時預かり保育事業	//	8
4	特別支援教育事業 (小学校)	//	9
5	特別支援教育事業 (中学校)	//	10
6	コミュニティ・スクール事業	//	11
7	地域教育コーディネーター育成・活用事業	生涯学習課	12
8	放課後子ども教室推進事業	//	13
9	人材活用事業	//	14
10	地域教育力活性化事業	中央公民館	15
11	史跡宇土城跡保存整備事業	文化課	16
12	網田焼の里資料館活性化事業	//	18
13	市内重要遺跡保存活用事業	//	20
14	小西行長関連事業	//	22
15	大太鼓活用事業	//	24
16	宇土市歴史的資料保存活用事業	//	26
17	文化的景観整備事業	//	28
18	図書館蔵書充実事業	図書館	30
19	緑川地区グラウンド排水状況改善事業	スポーツ振興課	31
20	給食センター施設整備事業	給食センター	32

## I 点検・評価制度の概要

### 1 経緯

平成18年12月の教育基本法の改正及び平成19年3月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）が改正され、平成20年4月から施行されました。

地教行法の改正目的である「教育委員会の責任体制の明確化」の一つとして、同法第26条の規定に基づき、教育委員会が毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行うことが義務付けられました。

### 2 目的

教育委員会は、首長から独立した立場で、地域の学校教育、社会教育等に関する事務を担当する行政機関として、すべての都道府県及び市町村等に設置されている行政委員会です。その役割は、専門的な行政官で構成される事務局を、様々な属性を持った複数の委員による合議により、指揮監督し、中立的な意思決定を行うものです。

事務の点検・評価は、上記地教行法第26条の規定に基づき、教育委員会が、教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすことを目的としています。

### 3 対象事業の考え方

点検評価の対象事業は、行政の政策や施策、事務事業を有効性、効率性などの視点から一定の物差し（指標）によって客観的に評価し、事務改善や分かりやすく透明性の高い市政運営につなげていくために実施された「宇土市事務事業評価」の評価体系に準じ、教育委員会が実施した全事務事業の中から、事業費が多額にわたるもの、社会的関心が高いものなど、事業の在り方を検証する必要性が高いと判断される20事業を選定しました。

### 4 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項の規定による有識者の知見の活用については、担当課が行った点検・評価（自己評価）の結果について、学識経験者を含む5人の外部評価委員に、対象事業についての御意見をいただきました。

#### 外部評価委員名簿

氏名	職業等	委嘱期間
田口 剛	元教師	委嘱の日から平成29年3月31日
松本 幹夫	緑川公民館長	〃
伊勢 聰	放課後子ども教室コーディネータ	〃
若松 直美	PTA 女性代表	〃
間 一雄	公募委員	〃

## 5 教育委員会としての今後の方向性

担当課自己評価に対する外部評価委員の御意見等を踏まえ、最終的に教育委員会としての今後の方向性を下記4つの中から選択しました。

拡充	事業規模・内容を、より拡大・充実し継続すべき事務事業
維持	概ね現在の方向性・規模のまま継続すべき事務事業
要改善	現在の方向性を見直し、規模・手法等について改善を図るべき事務事業
廃止	事業目的・活動内容等が、効率的・効果的でない事務事業

### <参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## Ⅱ 点検・評価の結果

平成28年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	学校一般経費(ICT関連経費) H26経済対策分【繰越】	担当課	学校教育課 総務係
事業目的	情報活用能力, コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力といった社会で生きるために必要な力を高める手段として, ICTは今日の教育的課題を解決するため必要である。また, ICTの活用により, 教員の指導力の向上につながり, 教育活動の質の向上につながることを目的とする。		
事業内容	教育委員会では, パソコン教室のインターネット接続に始まり, 教育イントラネットの整備, 学校のICT環境整備を積極的に推進する。またパソコン教室のデスクトップ端末の老朽化を契機に, 無線LAN等の整備更新を行う。		
27年度の進捗状況	平成26年度は網田中学校に, また平成27年度は全小学校に無線LAN環境整備を行い, タブレット端末の導入を行った。		
課題・問題点	無線LANの環境は, 全小学校及び網田中学校で整備が完了している。しかし住吉中学校及び鶴城中学校の2校ではまだ整備がすすんでおらず, 平成28年度以降整備する予定である。		
予算額・決算額	H25予算額 千円 H26予算額 千円 H27予算額 18, 806千円	H25決算額 千円 H26決算額 千円 H27決算額 12, 133千円	
担当課 自己評価	限られた予算の中で, 効率的なICT環境整備を行う必要があることから, まずタブレット端末の導入や無線LAN整備などのハード面については, 一定の成果を上げることができた。今後はICTを利用する児童・生徒と先生が, ICTを利活用し, 効果的な授業ができるようにソフト面の充実を図っていきたいと考えている。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の指導力向上に向けての十分な対策並びにパソコン等の正しい利活用の指導徹底をすべきである。</li> <li>・ICT活用能力, コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力は社会生活上とても重要と考える。28年度以降も実施していただきたい。</li> <li>・時代のニーズに答えるためにICT関係の整備は必要である。一方で基本的な生徒への指導面で指導者育成が充分であるか。各学校の格差がないように予算面を考慮して早急の実施すべきである。</li> <li>・各学校の均衡をはかるために予算措置をお願いしたい。ICT導入については, ソフト面, ハード面で生徒, 教師, 指導者の育成に力を注いでほしい。活用が生かされて, 授業内容が充実されることを望む。</li> <li>・どのような科目での授業が生徒の興味関心を生み, 学習の効果をいかにあげるか, 利用法等についての教員研修は必要である。</li> <li>・事業目的にあった成果がでるように, 事業を実施して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
教師の指導力向上については, 今後は教育センター等の制度を活用し, 教諭のスキルアップに継続して務めていきます。またパソコン教室での授業については, 話し合いや活動を通じ, 自分の考えを発表したりできるようなグループ学習のみならず, タブレットの利点を十分に活用し, 授業を進めていくことで, ICTの利点を生かした授業を実施していきます。			

教育委員会としての  
今後の方向性

① 拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止

平成28年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	多子世帯給食費補助事業(H26経済対策分)【繰越】	担当課	学校教育課 総務係
事業目的	多子世帯の保護者の経済的負担(給食費)を軽減することにより、子育て支援を推進することを目的にする。		
事業内容	子育て支援を推進するため、多子世帯の保護者の経済的負担を軽減することが求められている。平成27年度から、新たに、学校教育法の規定に基づく保護者が負担すべき学校給食費の第3子以降分について無償化を行う。		
27年度の進捗状況	本事業の補助対象者である児童・生徒160人に対して給食費の補助(無償化)を図ることで、多子世帯の保護者の負担軽減に取り組んだ。		
課題・問題点	平成27年度は、国の経済対策補助金を財源として本事業を行ったが、平成28年度は国の経済対策事業を活用できず、市の一般財源で行っているが、本事業を継続して行っていくためには、国の補助事業等の財源の確保が必要となってくる。		
予算額・決算額	H25予算額 千円 H26予算額 千円 H27予算額 7,873千円	H25決算額 千円 H26決算額 千円 H27決算額 6,775千円	
担当課 自己評価	義務教育中の児童生徒が3人以上いる保護者にとっては、補助対象となる児童生徒1人あたり小学校の児童においては約43,000円、中学校の生徒においては約50,000円の1年間の給食費を無償化にすることにより、多子世帯の保護者の経済的負担軽減を図ることができた。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業は、子育て支援に大変有意義であると思える。少子化対策の面からも効果があるものと思われる。</li> <li>・財源確保に努力され事業を継続して頂きたい。</li> <li>・少子化時代を迎えて、多子世帯への支援は児童・生徒の教育費等で経済負担は大きいので、補助対策は保護者にとっても大きな支えとなるので推進すべきである。</li> <li>・財源確保が一番の問題点と思うが、保護者の負担軽減を図ることが経済格差をなくすことと思う。又、多子世帯への給食費の無償化と共に、未納者が多い点は教育上問題があるので、十分な対策をお願いしたい。</li> <li>・一人でも給食費無償化にすることにより、家計的に助かる家庭もあるので継続を</li> <li>・給食費の滞納者について、多くの学校でも問題になっていて、公共の機関の力を借りてでも徴収する必要がある。</li> <li>・事業目的にあった成果がでるように、事業を実施して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
多子世帯の家庭で、義務教育中の児童・生徒が3人以上いる世帯においては、本補助金は経済的に大変有意義な制度と認識しています。財源確保が事業を継続するうえで重要であることから、補助メニュー等を検証するとともに、財源確保に努めて継続して実施していきます。また今後は申請時などにアンケートを実施し、各家庭における満足度などを調査し、本事業が事業目的にあっているかの検討を行なっていきます。			



教育委員会としての  
今後の方向性

拡充

・

維持

・

要改善

・

廃止

平成28年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	一時預かり保育事業	担当課	学校教育課幼稚園
事業目的	共働き世帯の増加に伴うニーズに応え、家庭において保育を受けることが一時的に困難になった幼稚園児を預かることで、保護者の子育てを支援することを目的とする。		
事業内容	保護者の就労形態の多様化等により、家庭における保育が一時的に困難となる状況が増えており、現在通園している幼稚園児に対して一時預かり保育が必要とされている。そこで、平成27年度から一時預かり保育を市内公立幼稚園において開始した。保育時間は、年少児は午後2時から午後4時まで、年中児・年長児は午後3時から午後4時まで、また、長期休業中は午前9時から午後4時までとし一時預かり保育を実施する。		
27年度の進捗状況	幼稚園児一時預かり保育の一日平均利用園児数は、14人であった。また、年間利用延べ人数は、宇土幼稚園が2,727人、花園幼稚園が3,460人の合計6,187人であった。		
課題・問題点	現在一時預かりについては、現在1日当たり100円の料金を、また長期休業中の夏休み期間は6,000円、春休み、冬休み期間の一時預かりについては、2,000円を徴収しているが、料金については一時預かりを利用する園児数の状況を勘案して、利用料金の値上げも検討していく必要がある。		
予算額・決算額	H25予算額 千円 H26予算額 千円 H27予算額 14,987千円	H25決算額 千円 H26決算額 千円 H27決算額 12,331千円	
担当課自己評価	第2次宇土市教育振興基本計画に掲げている幼稚園の預かり保育である。本事業の預かりについては、条件を設定せずに保護者の必要に応じて園児を預かっているため年間延べ6千人もの需要があり、今後も本事業を継続してしていく必要がある。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぜひ継続してほしい。</li> <li>・男女平等に働ける時代になり、共働き家庭が増加するのは明らかであり、「子供を守り育てる」のは時代のニーズで継続してほしい。</li> <li>・「核家族化、共働き世帯の子育てを支援する」母親としてとても助かる事業である。</li> <li>・事業目的にあった成果がでるように、事業を実施して頂きたい。</li> <li>・園児の増加に伴い厳しい予算事情であるが子育て支援は必要と思いますので、継続していくには利用料金の値上げも検討すべきである。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<p>本事業については、全委員から継続すべきとの多数の御意見をいただきました。ただし一時預かり保育事業を実施するうえでの料金については、委員から値上げも検討すべきとの御意見をいただきましたので、今後は他自治体の料金を参考に、利用料金については検証していきます。</p> <p>一時預かり保育は、今年から開始した事業であり、利用する保護者にとって有効性が高い事業であることから今後も継続して実施していきます。</p>			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

平成28年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	特別支援教育事業(小学校)	担当課	学校教育課
事業目的	発達障害を含む障がいのある児童や特別な配慮を必要とする児童に対して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導を行い自立に向けて支援するもの。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立7小学校に特別支援学級、通級指導教室を設置する。</li> <li>・発達障害を含む障がいのある児童や特別な配慮を必要とする児童に、よりきめ細かい適切な教育支援を行うため、市単独財源で非常勤職員を学校に配置する。</li> <li>・教育支援委員会や特別支援教育連携協議会を開催することにより、障がいに応じた適切な教育支援を実践する。</li> </ul>		
27年度の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級は12学級(自閉症・情緒障害6学級、知的障害4学級、肢体不自由1学級、難聴1学級)あり、児童数は47人、宇土・花園小学校に通級指導教室を設置した。</li> <li>・発達障害を含む障がいのある児童や特別な配慮を必要とする児童向けに市単独財源で非常勤職員5名を学校に配置した。</li> <li>・教育支援委員会や特別支援教育連携協議会を開催し、障がいに応じた適切な教育支援の実践に繋がった。</li> </ul>		
課題・問題点	特別支援学級の対象とすべき児童や、発達障害を含む障がいのある児童や特別な配慮を必要とする児童は増加傾向にあり、特別支援学級の設置、非常勤職員の人材確保が課題である。		
予算額・決算額	H25予算額 11,420千円 H26予算額 10,046千円 H27予算額 10,162千円	H25決算額 11,174千円 H26決算額 9,688千円 H27決算額 9,030千円	
担当課 自己評価	発達障害を含む障がいのある児童や特別な配慮を必要とする児童は年々増加傾向にあり、よりきめ細かい適切な教育的支援を図るため、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導を行い、自立することができるよう今後も継続していく必要がある。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別に支援を要する児童・生徒にきめ細かな指導を実施されていることは、大変意義あるものとする。</li> <li>・児童数増加傾向の中でなぜ決算額が減少しているのか。</li> <li>・市単独財源で非常勤職員の配置は大変なことと思うが続けてほしい。</li> <li>・特別支援学級はひとりひとり、よりきめ細かい支援が必要であるので児童に寄り添った人材確保が課題である。人材不足では児童の十分な支援はできないと思う。</li> <li>・特別支援を必要とする児童の増加に伴い、きめ細かい教育を実施するには、非常勤職員の確保が最大の課題であるので県等の予算措置が必要である。</li> <li>・学校生活等いろいろな活動を一緒にしていくことで、子どもたちがそれぞれ心の成長に必要なことだと思うので継続を</li> <li>・児童・生徒の持つ知能、適性を十分に把握し、工夫して根気強く指導に当たってもらいたい。その為には教室、グラウンド、校外における日常の生活場面において、生徒の具体的な行動を観察する必要がある。</li> <li>・事業目的にあった成果がでるように、事業を実施して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
決算額は、非常勤職員の配置、勤務状況により変動しています。 今後も特別に支援を要する児童に対し、よりきめ細かく、一人ひとりに寄り添った適切な支援が実施できるよう工夫するとともに、必要な人材の確保及び予算の確保に努めていきます。			
教育委員会としての 今後の方向性	拡 充 ・ <b>維 持</b> ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

平成28年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	特別支援教育事業(中学校)	担当課	学校教育課
事業目的	発達障害を含む障がいのある生徒や特別な配慮を必要とする生徒に対して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導を行い自立に向けて支援するもの。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立3中学校に特別支援学級、通級指導教室を設置する。</li> <li>・発達障害を含む障がいのある児童や特別な配慮を必要とする児童一人ひとりの状態に応じた、よりきめ細かい適切な教育支援を行うため、市単独財源で非常勤職員を学校に配置する。</li> <li>・教育支援委員会や特別支援教育連携協議会を開催することにより、障がいに応じた適切な教育支援を実践する。</li> </ul>		
27年度の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級は6学級(自閉症・情緒障害3学級、知的障害2学級、肢体不自由1学級、難聴1学級、弱視1学級)あり、児童数は19人、鶴城中学校に通級指導教室を設置した。</li> <li>・発達障害を含む障がいのある児童や特別な配慮を必要とする児童向けに、市単独財源で非常勤職員2名を学校に配置した。</li> <li>・教育支援委員会や特別支援教育連携協議会を開催し、障がいに応じた適切な教育支援の実施に繋がった。</li> </ul>		
課題・問題点	特別支援学級の対象とすべき生徒や、発達障害を含む障がいのある児童や特別な配慮を必要とする生徒は増加傾向にあり、特別支援学級の設置、非常勤職員の人材確保が課題である。		
予算額・決算額	H25予算額 4,019千円 H26予算額 6,114千円 H27予算額 4,065千円	H25決算額 3,896千円 H26決算額 5,230千円 H27決算額 3,355千円	
担当課自己評価	発達障害を含む障がいのある生徒や特別な配慮を必要とする生徒は年々増加傾向にあり、よりきめ細かい適切な教育的支援を図るため、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導を行い、自立することができるよう今後も継続していく必要がある。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別に支援を要する児童・生徒にきめ細かな指導を実施されていることは大変意義あるものとする。</li> <li>・児童数増加傾向の中でなぜ決算額が減少しているのか。</li> <li>・市単独財源で非常勤職員の配置は大変なことと思うが続けてほしい。</li> <li>・特別支援の児童・生徒の増加に応じた教室の設置、人材の確保が急務である。指導面では障がいに応じたきめ細かい支援を継続してほしい。</li> <li>・児童の障がいに応じた教育支援を今後とも継続と充実をお願いしたい。</li> <li>・継続していただきたい</li> <li>・「明るく、やさしく、公平で、わかりやすく教えてくれる」先生を望んでいます。</li> <li>・事業目的にあった成果がでるように、事業を実施して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
決算額は、非常勤職員の配置、勤務状況により変動しています。 今後も特別に支援を要する児童に対し、よりきめ細かく、一人ひとりに寄り添った適切な支援が実施できるよう工夫するとともに、必要な人材の確保及び予算の確保に努めていきます。			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ <b>維 持</b> ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

平成28年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	コミュニティ・スクール事業	担当課	学校教育課
事業目的	保護者・地域住民が一定の権限と責任を持って学校運営に参画することにより、そのニーズを迅速かつ的確に学校運営に反映させるとともに、学校・家庭・地域社会が一体となり、より良い教育の実現に取り組むもの。		
事業内容	学校運営協議会を開催し、委員から学校運営や教育活動等に多様な意見をいただき、学校目標の共有化及び学校評価を踏まえ、改善や見直しを図る。 また、コミュニティ活動の実践により、学校の教育活動の活性化を図る。		
27年度の進捗状況	市立小学校5校・中学校2校で学校運営協議会を設置(網田地区は小中共同設置)し、会議を開催した。学校とボランティア等の地域人材とがつながり、子どもたちが抱える課題を地域ぐるみで解決する仕組みを地域全体で考えることで、学校教育活動の活性化、子どもたちの生活改善、学力向上に寄与することができた。		
課題・問題点	学校運営協議会が未設置の宇土小学校、宇土東小学校、鶴城中学校での事業実施及びスムーズな事業開始が課題である。		
予算額・決算額	H25予算額 1,329千円 H26予算額 1,029千円 H27予算額 1,205千円	H25決算額 1,065千円 H26決算額 908千円 H27決算額 880千円	
担当課自己評価	コミュニティを構成し実践することにより、学校・家庭・地域社会の連携強化を図り、効果的な情報収集と発信を行った。それにより、学校運営協議会を核とした学校・家庭・地域社会のネットワークの強化に繋がってきている。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容は、大切なことだと思います。</li> <li>・地域、学校、家庭が連携し、より良い学校の環境作りを進め地域ぐるみの子育てを支援する必要がある。</li> <li>・子ども達に地域の良さ、ふるさとの良さを知ってもらって、郷土愛が生まれてくる。地域のよりよい絆が生まれる。子供たちの成長を見守り、育てることが大切である。安全で安心できるまちづくりを目指したい。</li> <li>・連携を徐々に強化していくことで、繋がりも強いものになると思うので、継続していただきたい。</li> <li>・コミュニティ活動の「内容」についての検討が必要である</li> <li>・事業目的にあった成果がでるように、事業を実施して頂きたい。</li> <li>・教員へのメンタル面での対応を十分に行うようにしていただきたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<p>地域、学校、家庭が連携して地域ぐるみの子育ては、子どもたちの成長にとって非常に大切であると考えており、事業の目的が達成できるよう、各学校へ支援を行うとともに、全小中学校で学校運営協議会を設置し、事業実施できるよう取り組んでいきます。</p>			
教育委員会としての今後の方向性	<div style="text-align: center;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">拡 充</span> ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止         </div>		

平成28年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	地域教育コーディネーター育成・活用事業	担当課	生涯学習課
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、家庭、地域が一体となって子どもを育てる体制の構築</li> <li>・地域の活性化や学校を核とした地域づくり</li> <li>・地域住民(学校支援ボランティア)の知識や経験を生かす場の提供</li> <li>・教員の子供と向き合う時間の確保</li> </ul>		
事業内容	<p>鶴城中学校区及び住吉中学校区内の小中学校(2中学校6小学校)を対象に、地域住民から学校支援ボランティアを募り、環境美化・本の読み聞かせ・通学路の安全指導・学習支援などのボランティア活動を実施する。学校からの要請に応じてボランティア活動を行うことで、学校・家庭・地域が一体となって児童生徒を支援していくものである。</p>		
27年度の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア養成講座(全2回)</li> <li>・地域協議会開催(全4回)</li> <li>・本の読み聞かせ支援(180回)、校内環境整備支援(5回)、通学路の安全指導(学校登校日通常実施)、学習支援(120回)、行事支援(20回)</li> </ul>		
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業のさらなる啓発と情報発信</li> <li>・学校支援ボランティアの確保</li> </ul>		
予算額・決算額	H25予算額 1,998千円 H26予算額 2,033千円 H27予算額 1,659千円	H25決算額 1,875千円 H26決算額 1,779千円 H27決算額 1,571千円	
担当課自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援ボランティア(地域住民)の知識、経験を活かす機会を設けることにより、地域の活性化・学校を核とした地域づくりへとつなげる契機になってきている。</li> <li>・学校支援ボランティアの方々の、事業に対する姿勢が子供たちの心に届き、ボランティアの心を育むのに役立っている。</li> <li>・学校支援ボランティア(地域住民)による支援を得ることで、学校(教師)にとっての本来の教育活動に一層力を注ぐことができています。</li> </ul>		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の充実を期待する。</li> <li>・人材の有効活用をもっと積極的に進めてほしい。地域が学校と連携してボランティア精神を推進すべきと思う。</li> <li>・高齢化し、固定化した人材だけではなく、新規人材を活用して活性化をすべきである。</li> <li>・継続してほしい。</li> <li>・ボランティア活動に対して、積極的に参加希望する人材をいかに募るかが継続していく鍵である。</li> <li>・事業目的にあった成果がでるように、事業を実施して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<p>宇土市内各小中学校とそれぞれの学校支援ボランティアとの関係が年々強化されている、と感じています。地域の学校支援ボランティアと直に接することで子どもたちにボランティア精神が醸成され、先の熊本地震でも献身的にボランティア活動を行っていただきました。</p> <p>今後は更なるボランティアの応募や活動メニューの見直し、充実を図りながら、学校関係者との連携を強め、継続して実施していきます。</p>			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ <b>維 持</b> ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

平成28年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	放課後子ども教室推進事業	担当課	生涯学習課
事業目的	放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週2回(水曜日と金曜日)実施。水曜日は学習アドバイザーによる学びタイム(ドリル学習など)、金曜日は地域の方々と共に活動するふるさとタイム(スポーツや伝承あそびなど)。</li> <li>・事業運営委員会(年2回)及びスタッフ会議(学期ごと)の開催</li> <li>・教育委員会ALTとの交流や、県派遣のボランティアの活用</li> </ul>		
27年度の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・網田小学校を対象に、全校児童99名のうち24名が参加。</li> <li>・実施回数全52回(学びタイム23回、ふるさとタイム28回、中止1回)</li> <li>・県の学習支援・体験活動ボランティアチームの活用(学びタイム:熊本大学教育学部学生等14名、ふるさとタイム:お話し会4名)</li> </ul>		
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の主体的な活動を円滑に実施するためのコーディネーターや学習アドバイザー・安全管理員等の育成と確保</li> <li>・魅力ある事業プログラムの開発、創造</li> </ul>		
予算額・決算額	H25予算額 698千円 H26予算額 659千円 H27予算額 659千円	H25決算額 595千円 H26決算額 524千円 H27決算額 517千円	
担当課自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期や季節に応じたふるさとタイムを実施し、参加する子どもたちの生き生きとした姿が見られた。</li> <li>・ボランティアを中心とした、様々な年齢層の人々との交流機会と、放課後の居場所づくりとしての役割を十分に果たしている。</li> <li>・地域の大人とのかかわりの中で、感謝する心や物を大切にできる態度など、子どもの豊かな心を育む契機となっている。</li> </ul>		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習アドバイザー等の高齢化が心配である。</li> <li>・子ども達を地域で育てるために地域の力を生かした子どもたちを支援すべきである。例えば伝承遊び等(凧揚げ・コマ回し)</li> <li>・子どもたちを、地域と学校が連携し、異年齢との交流をはかり地域ぐるみの態勢作りが必要である。</li> <li>・すごく良い事業だと思うので、継続してほしい。</li> <li>・昨今、コミュニケーション力に乏しい子供が多いように思われる。これは家庭教育にも問題があり、これらのことを考えて集団生活を子供達が体験し、学ぶことは将来の社会生活にも役立つ。</li> <li>・事業目的にあった成果がでるように、事業を実施して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<p>放課後の居場所のひとつとすることで子どもたちの安全を確保し、さらに地域の様々な世代の方々と交流を経ながら、子どもたちのコミュニケーション力、地域を愛する心などを育む場として、今後も引き続き継続して実施したいと考えております。特に今年の熊本地震で子どもたちは少なからず心理的影響を受けており、これからの子どもたちの可能性を伸ばしていく方針です。</p> <p>ただし、ご指摘のように学習アドバイザーの後継者・増員などについては喫緊の課題であると認識しており、今後人材発掘に努め継続して実施していきます。</p>			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ <b>維 持</b> ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

平成28年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	人材活用事業	担当課	生涯学習課
事業目的	様々な知識や技術を持つ地域の方々を募り、学校や団体、地域に派遣し、伝統・文化の継承や世代間の交流等を行うことによって、地域の教育力の向上と生涯学習活動の推進を図る。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生け花や絵手紙、昔遊び、太鼓演奏、着付けといった、伝統文化分野を中心とし、市民から要望のある分野での専門知識を持つ方へ講座を依頼。宇土市内小中学校や各地区公民館など、数多くの公共施設を利用して講座を開催し、世代間交流などを図る。</li> </ul>		
27年度の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前研修会を開催(参加者30名)</li> <li>・指導者登録者数176名、申請件数40件、実施日65日、派遣指導者延べ194名、利用者数延べ2,408名</li> <li>・広報での、指導者の募集や事前研修会等のPR</li> <li>・平成27年度の実績をまとめ、冊子を作成。</li> </ul>		
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者として登録されているものの活動がない方々にいかに広くアピールし、活躍の場が提供できるか。</li> <li>・伝統芸能分野を中心とした、登録指導者の高齢化による後継者等の確保</li> </ul>		
予算額・決算額	H25 予算額 207千円 H26 予算額 208千円 H27 予算額 208千円	H25 決算額 125千円 H26 決算額 120千円 H27 決算額 151千円	
担当課自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者からお礼の文書をいただくことがあり、指導者や受講者双方にとって生きる喜び・感動を与える機会になっている。地域教育力の向上と生涯学習の推進を図るためには重要な事業のひとつになりつつある。</li> </ul>		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者登録者をたくさん利活用できるような啓発を</li> <li>・地域の方々が自分の技術や知識を生かし、人々のお役に立つことを喜びとして生涯を送ってほしい。</li> <li>・高齢者や地域の方々が生き生きと生活を送るため、地域の力を生かし、講座等を積極的に推進すべきである。又、人材の発掘を推進すべきである。</li> <li>・参加させたいなと思っても、日程が合わず、日程を増やしたりと、いろいろな対策はしていると思うが。</li> <li>・少子化、高齢化にともない、地域での教育力は非常に劣化している現状をふまえて考えるべき事業である。</li> <li>・事業目的にあった成果がでるように、事業を実施して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<p>地域の皆さんが持っている技術、知識の伝承を通じ、子どもたちのスキルアップや地域の方の生きがいにつながっていると考えております。今後もさらなる利用促進に向け、指導項目・指導者の拡充及び事業の啓発に努めながら、継続して実施していきます。</p>			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ <b>維 持</b> ・ 要 改 善 ・ 廃 止		



平成28年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	地域教育力活性化事業	担当課	中央公民館
事業目的	<p>少子高齢化、情報社会等、子どもを取り巻く地域の新たな教育課題に対応し、地域において人間性豊かな子どもを育てる環境を充実させるため、各公民館を軸として地域的人物的教育資源等を活用しながら、週末等に様々な体験活動を実施し、地域教育力の活性化を図る。</p>		
事業内容	<p>各地区公民館で芋の苗植え、収穫等の農業体験、竹細工、地域探訪、昔遊び、料理教室、環境学習、施設見学、読み聞かせ等を実施。計52回 延1,587人(内支援者476人)                      ・3泊4日の通学合宿(網田、網津、緑川、走湯)実施。参加者79人                      ・公民館子ども祭り 参加者78人</p>		
27年度の進捗状況	<p>地域住民の支援によるさまざまな体験活動の実践を通して、異年齢の子どもたちの交流や地域住民等の交流が図られ、心豊かな子どもたちの育成につなげることができた。</p>		
課題・問題点	<p>課題としては、少子化とともに、4年生以上になると部活動等で、子どもの参加が少なく、低学年を中心としたプログラムに限りがある。また、地区によっては参加児童の減少が見られるため、継続して、地域の特色を取り入れたより魅力的な活動を推進していく必要がある。</p>		
予算額・決算額	H25予算額 996千円 H26予算額 987千円 H27予算額 943千円	H25決算額 442千円 H26決算額 585千円 H27決算額 555千円	
担当課自己評価	<p>少子化・情報社会にあつて、子どもの姿を地域で見かけなくなり、異年齢集団での遊びや地域の自然を生かした体験活動が激減している中、地域の人を巻き込みながら、子どもたちの体験活動の場を提供することは、地域において人間性豊かな子どもを育てる環境の整備となっている。また、高齢者の生きがいづくりにも寄与しており、「地域の子どもは、地域で育てる」という気風を高めている。さらに、地域そのものの絆が薄れている中、子どもを中心とした地域活動は、ますます重要な位置づけとなる。</p>		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢集団での活動も大切なことと思われるので、ぜひ充実した事業として頂きたい。</li> <li>・核家族、少子化の時代にいかに地域との関わりを持って子どもたちを地域で育てていくことの大切さを痛感している。</li> <li>・心豊かな子どもを育てるためには、学校、家庭、地域が連携し地域の力を生かし、活動の拠点として、公民館の役割は重要である。地域のコミュニケーションの拠点として体験活動の場となるように。</li> <li>・数年前、佐野地区でも地域のお年寄りの方々と交流でき、日頃体験できないことができ、よい事業である。</li> <li>・児童・生徒の生活を明るくし、強く正しく生きる意志を育てるのに役立つ。</li> <li>・事業目的にあつた成果がでるように、事業を実施して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<p>本事業は、子どもたちの協調性を高め、地域の子どもは地域で育てる気風をつくるためにも、公民館を軸としてさまざまな地域団体の参画を得て実施しており、地域コミュニケーションづくりの拠点としても重要な事業であると考えています。今後も、より多くの地域住民を巻き込んだ活動を継続して実施します。</p>			
教育委員会としての今後の方向性	拡 充 ・ <b>維 持</b> ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

平成28年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	史跡宇土城跡保存整備事業	担当課	文化課
事業目的	<p>史跡宇土城跡は、中世城跡としては県内で最初に国指定史跡となった貴重な文化財であり、恒久的に保存するため適切な維持管理を行うとともに、発掘調査の成果に基づいた整備を実施し、多くの市民の憩いの場や野外博物館的な施設等として生涯学習の拠点とする。加えて、体験発掘やキャスルウォーキングといった市民参加型のイベントを通じ宇土の重要な地域資源としての認知度を更に向上させ、まちづくりの拠点としても活用することを目的とする。</p>		
事業内容	<p>保存整備工事を昭和56年度より着手。整備のための発掘調査を平成2年度(4次調査)から実施している。城跡東側の西岡神宮北側地区(第1ブロック)及び城の中心をなす千畳敷及び周辺地区(第2ブロック)は、平成18年度までに保存整備が終了し、一般開放している。また、19年度より三城及び周辺地区(第3ブロック)の保存整備に着手し、一部復元工事を除き平成25年度でおおむね整備を完了した。平成25年度より長期計画に位置付けられる空堀地区(第5ブロック)の発掘調査に着手しており、調査成果を反映した整備工事を計画している。</p>		
27年度の進捗状況	<p>第5ブロック(空堀地区)の横堀跡(通称カラホリ)の遺構確認調査(調査面積209㎡)を実施。また、当該発掘調査に伴う現地説明会を開催(3月13日、参加者60名)。また、史跡として適切に保護し、次世代へ確実に継承するため、『史跡宇土城跡保存管理計画書』を刊行するとともに、本書の内容を広く周知するため、宇土市ホームページの「デジタルミュージアム」で公開している。</p>		
課題・問題点	<p>史跡の保存管理については、史跡指定面積101,613.24㎡のうち、民有地5,762㎡(5.67%)の公有化が実現できておらず、史跡整備を予定している部分も含まれているので、今後、公有化に向けた取組みを行う必要がある。また、活用については、宇土城跡の本質的価値について広く情報発信して市民の理解と関心を更に高めるとともに、地域の宝として利活用されるような取組みを行う必要がある。</p>		
予算額・決算額	<p>H25予算額 11,608千円 H26予算額 13,103千円 H27予算額 4,402千円</p>	<p>H25決算額 11,432千円 H26決算額 13,015千円 H27決算額 4,316千円</p>	
担当課自己評価	<p>「維持」 宇土城跡の発掘調査に伴い体験発掘や現地説明会を毎年開催しており、その内容が市の広報やマスコミ等を通じて公表されることで、以前より市民の認知度も高まっている。今後は、平成25年度から着手した第5ブロックの横堀跡の発掘調査を継続して実施するとともに、第3ブロックにおける城門跡の復元や、第4ブロック(貝塚地区)・第5ブロックの保存整備工事に着手する等、宇土城跡に対する市民の関心をより一層高め、地域資源として積極的に活用されるような取組みを進めたい。</p>		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・決算額は年々減少している。宇土の貴重な文化財である宇土城跡の整備に努力してほしい。</li> <li>・歴史的にも貴重な遺産であるので、市民の関心が深まるよう定期的に、進捗状況を公表してほしい。</li> <li>・文化財としての価値があり、市民の認知度がさらに深まるように情報を発信してほしい。</li> <li>・史跡や遺跡は、その土地における文化的資産であり、その時代の文化自体の表現であり、歴史文化のパロメータを示している。きちんとした保存と研究、検証が必要である。</li> <li>・事業目的にあった成果がでるように、事業を実施して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			

・宇土城跡は、中世における宇土郡の在地領主宇土氏や名和氏が地域支配の拠点とした平山城であり、九州平定を経て近世へと時代が移り変わる様子が総合的にパッケージされた貴重な城郭である。今後とも、史跡として適切に保護し、次世代へ確実に継承していくための取組みを進めていきたい。

・保存管理だけでなく、往時の姿を理解できるように宇土城跡を整備するとともに、宇土市のまちづくりや地域振興に資する「地域の宝」として活用するための事業を積極的に行っていきたい。

・熊本地震や豪雨災害による土砂崩れ箇所を早期に復旧する必要がある。復旧工事後は、城郭遺構を適切に保護するとともに、近隣住宅等への土砂災害を未然に防ぐための防災工事を計画している。

教育委員会としての  
今後の方向性

拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止

平成28年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	網田焼の里資料館活性化事業	担当課	文化課
事業目的	江戸時代後期に栄えた網田焼は、肥後藩の藩窯として全国的に知られたやきものであったが、その頃の作品は現存するものが少なく「幻の網田焼」ともいわれる。網田地域の住民をはじめ宇土市内外の方々に網田焼の歴史や地元の特産品である網田ネーブルの歴史を知ってもらい、その価値を再認識してもらうことを目的とする。		
事業内容	網田焼を復元するため、現在は地元の陶芸家らの協力を得て、藩窯時代の作品の復元に取り組んでおり、最近では当時の作品に近い優れた作品が完成している。また、その復元工程を公開し、来館者に当時の技術の高さが垣間見える機会も提供している。それに加え、陶芸体験や絵付け体験を通じてやきものに親しむ機会を提供する場、網田の特産品であるネーブルについての歴史や価値をPRする場となるような事業を実施する。		
27年度の進捗状況	(1) JRウォーキング開催に伴う開館。(H27.4.13)【入館者227名】 (2) 網田焼の里資料館運営委員会の開催。(平成27年7月23日) (3) 文化庁補助事業「伝統文化親子教室事業」として茶道教室を中園邸にて実施。 (指導:うと村木会) 全11回開催【参加者 延べ169名】 (4) 網田焼の里秋まつり(平成27年10月10日～12日)【期間中参加者合計278名】 (5) 網田ネーブルの里春まつり(平成28年3月12日～13日)【期間中参加者合計313名】 (6) 宇城の窯元めぐり作品の展示・期間中毎日開館(平成27年10月10日～10月18日) (7) 網田焼の里資料館中園邸外壁修繕(平成27年5月～7月)		
課題・問題点	(1) 平成8年度の開館以来、展示内容がほとんど変わらないため、網田焼やネーブルの魅力伝えるような展示内容の充実を図る。 (2) 地元の地域振興会等と協力し、「網田焼の里資料館」でしか体験できないような文化体験を企画する等、イベント時だけではなく日頃から来館者が訪れるような工夫が必要である。		
予算額・決算額	H25予算額 3211 千円 H26予算額 2069 千円 H27予算額 2243 千円	H25決算額 2424 千円 H26決算額 1799 千円 H27決算額 2059 千円	
担当課 自己評価	年に2回開催するイベント時には、陶芸体験等をはじめネーブルの直売会等を実施し市外からも多くの方が来館された。この企画が定着してきたので、さらに、国登録有形文化財となった「網田駅舎」やフットパス等地域の取り組みを活かした新たな企画を実施し、来館者の増加に繋げたい。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業については、啓発活動を拡大すべきでは。</li> <li>・西部地区のまちづくりの活性化のために必要である。震災後の支援が必要ではないか。</li> <li>・展示物の充実をはかり観光面と結びついた来館者収容に努めてほしい。</li> <li>・網田焼のPRと位置表示の看板が明解でないように思える。</li> <li>・資料館の活性化は、地域の活性化につながる。そのためには、例えば「協議会」のような組織をつくって、住民からの多様なアイデアを持ち寄って議論し、決定したことを実行に移す努力が必要だ。</li> <li>・事業目的にあった成果がでるように、事業を実施して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			

- ・熊本地震により中園邸および資料館も被災し、現状、臨時休館中であるため、復旧工事を行ない、できる限り早い原状回復に努める。
- ・資料館の展示内容を充実させ、来館者にとってわかりやすい解説表示(録画放送や音声解説等)を工夫する。
- ・網田焼の里資料館で実施する取り組みが、西部地区の地域振興に繋がるよう、地元地域振興団体に所属し、かつ網田焼の里資料館運営委員会の委員でもある方々の意見やアイデアを積極的に取り入れるよう努める。
- ・市外から、資料館で実施する体験プログラムに参加される方もいるので、来館者が恒常的に増加するよう、幅広い体験プログラムを用意する等来館者のニーズに応える工夫をする。

教育委員会としての 今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止
---------------------	-------------------------

平成28年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	市内重要遺跡保存活用事業	担当課	文化課
事業目的	<p>宇土市には、国指定2件・国登録1件・県指定9件・市指定106件の計118件の指定文化財がある。これらの指定文化財や現時点で指定されていない遺跡の中には、将来的に国・県指定になる可能性がある重要遺跡が存在する。これら重要遺跡を後世に継承していくため適切に管理・保存するとともに、市民の方へ調査成果を公開する等、遺跡や文化財の積極的な活用が求められている。市内遺跡の分布調査や発掘調査、出土遺物整理などを実施することにより、国・県指定に向けた様々な要件を整理するとともに、保存計画等を策定して遺跡の活用や恒久的な保存を図る。</p>		
事業内容	<p>○周知の埋蔵文化財包蔵地における開発行為の把握に努め、必要に応じて試掘・確認調査を実施する。                  ○重要遺跡である轟貝塚について、国史跡指定に向けた基礎資料収集のための発掘調査を実施する。                  ○各重要遺跡の保存・活用について、今後の事業方針を検討する宇土市重要遺跡保存活用検討委員会を開催する(年2回程度)</p>		
27年度の進捗状況	<p>○周知の埋蔵文化財包蔵地における開発行為の把握に努め、うち2か所については確認調査を実施した。                  ○轟貝塚の発掘調査を実施した結果、遺跡内の層序やその時期について、およその所見が得られた他、縄文時代早期に遡るとみられる生活痕跡や埋葬人骨が検出された。また、それらの成果について現地説明会を実施(参加者約90名)する等、成果の周知にも努めた。                  ○宇土市重要遺跡保存活用検討委員会を2回実施し、意見を轟貝塚発掘調査等に反映した。</p>		
課題・問題点	<p>○特に庁内の他部署が行う開発行為について、文化財保護法第94条に基づく通知が徹底されていない部分がある。                  ○轟貝塚中心部については層序等の情報が概ね得られたが、遺跡の広がり等について不明点が多く、今後の調査課題である。                  ○事業半ばの轟貝塚の国指定を最優先課題としているため、曾畑貝塚や轟泉水道など、他の遺跡に関しては事業がほとんど進行していない。</p>		
予算額・決算額	<p>H25予算額 2,053千円                  H26予算額 5,575千円                  H27予算額 3,896千円</p>	<p>H25決算額 2,025千円                  H26決算額 5,165千円                  H27決算額 3,811千円</p>	
担当課 自己評価	<p>○国指定の可能性が充分にある轟貝塚・曾畑貝塚について、文化庁や有識者の助言・指導のもと発掘調査を継続して実施する。特に轟貝塚について、これまで実施してきた発掘調査の成果を、今後の国史跡指定に向けて地域住民に公表することを念頭に発掘調査概報を刊行する。また、これまでの貝塚中心部の調査に加えて周辺部についても調査を実施し、その所見までを盛り込んだ発掘調査報告書を刊行し、国史跡指定への足掛かりとしたい。                  ○現役最古の上水道「轟泉水道」に対し、専門家による指導・助言を受けて調査に着手する。</p>		
(外部評価委員からいただいたご意見)			

- ・事業の充実を期待します。
- ・発掘調査の継続と共に市民への遺跡の啓発活動が必要である。
- ・調査と保存活用は難しい面も多いと思うが、継続事業として推進すべきである。
- ・史跡や遺跡は、その土地における文化的資産であり、その時代の文化自体の表現であり、歴史文化のバロメータを示している。きちんとした保存と研究、検証が必要である。
- ・事業目的にあった成果がでるように、事業を実施して頂きたい。

(ご意見を踏まえた今後の方向性)

- ・今後も、開発行為等による遺跡の破壊に十分注意し、必要に応じて試掘・確認調査を行うなど、適切に対応していきたい。
- ・轟貝塚について、これまでの発掘調査成果をきちんと整理し、また必要な部分については更なる調査を実施した上で成果をまとめた発掘調査報告書を刊行し、国史跡指定への足がかりとする。
- ・調査成果を広く市民に還元するため、また地域の理解を得るため、調査成果や事業の進捗状況について、説明会や体験発掘などの各種イベントにより周知していく。

教育委員会としての 今後の方向性	拡 充    ·    維 持    ·    要 改 善    ·    廃 止
---------------------	---

平成28年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	小西行長関連事業	担当課	文化課
事業目的	<p>城下町宇土の基礎を築いた宇土城主・小西行長の人物像や国内外での活躍・功績を再評価することによって新たな地域資源を生み出し、宇土市の歴史遺産や伝統文化と併せて地域の活性化並びに観光の振興を図る。具体的には、小西行長に関連した研究を発表していただく講演会を継続して開催、小西行長への理解を一般の方へ深めてもらう。また、史料調査を行い、最新の研究成果を「うと学研究」に掲載。小西行長の研究拠点として、情報発信を行い、広く県内外の方々と共有を深める。</p>		
事業内容	<p>○小西行長に関する最新研究成果を発表する市民を対象とした「よみがえる小西行長公」講演会を開催する。 ○小西行長に関する史料の掘り起し及び調査を行う。 ○過去に開催した「よみがえる小西行長公」講演会の講演録を刊行する。</p>		
27年度の進捗状況	<p>○「よみがえる小西行長公」講演会 第9弾(7月11日, 参加者198名)を開催。 ○「よみがえる小西行長公」講演会 第10弾(9月19日, 参加者182名)を開催。 ○小西行長関連資料調査(東京)を専門家に依頼。関連史料の掘り起こしを行った。 ○平成22年度に開催した「シリーズ再検証 小西行長」講演会の講演録『再検証 小西行長—謎の武将が今よみがえる—(第2集)』を刊行。※第1集は平成21年度刊行。 ○平成16年度に刊行した『小西行長基礎資料集』の未収録史料114点を掲載した『うと学研究第37号』(小西行長基礎資料集—補遺—)を刊行。</p>		
課題・問題点	<p>○講演会に参加する方の顔ぶれが同じにならないため、新規参加者を増やす工夫や情報発信を行う必要がある。 ○小西行長講演会については、これまで18回開催してきており、テーマ設定が難しくなってきたため、参加者のニーズに沿った幅広いテーマの講演会を企画する必要がある。 ○講演会をはじめとする小西行長顕彰事業に限らず、本市の歴史遺産が観光振興に上手くリンクするような手法や工夫を改め直す必要がある。</p>		
予算額・決算額	<p>H25予算額 691千円 H26予算額 559千円 H27予算額 501千円</p>	<p>H25決算額 531千円 H26決算額 449千円 H27決算額 410千円</p>	
担当課自己評価	<p>○小西行長関連講演会は、平成27年度までに18回開催し、毎回県内外から毎回100名以上の参加があり、宇土市を代表する歴史イベントとして定着しているため、今後も継続して開催することが望ましいと思われる。 ○小西行長関連講演会の参加者から講演録の刊行要望が多く、また途中から講演会に参加された方からも過去の講演会のことが知りたいとの要望が寄せられ、平成27年度までに2冊の講演録を刊行した。今後も講演会を形として残すとともに、小西行長顕彰事業の重要な情報発信ツールとして、平成23年度以降に開催した講演会の講演録を継続して刊行する。 ○全国に散在する小西行長関連史料の調査を継続しておこない、平成27年度は『うと学研究 第37号』(小西行長基礎資料集—補遺—)を刊行した。本書は研究者だけではなく、一般の歴史愛好家や歴史に興味を持つ市民の方にも好評を得ている。学術的な内容を含む資料集ではあるが、資料集刊行も顕彰事業の大切な事業であることから、今後も調査を継続させ、その成果を形に残し、広く市民に還元するため資料集の刊行が必要である。</p>		
<p>(外部評価委員からいただいたご意見)</p>			



- ・徐々に「小西行長」についての認知度も増している。
- ・新聞、TVなどでPRの拡大を図り、啓発事業を徹底してほしい。
- ・宇土の歴史を知るための貴重な人物であるので情報を提供して観光面にもっと活かしてほしい。
- ・予算的に可能であれば資料館建設等も考えてはどうか。
- ・講演会等を大いに開催し幅広く広報し、観光面にもっと活かしていただきたい。
- ・歴史的人物としてのPRが必要である。
- ・事業目的にあった成果がでるように、事業を実施して頂きたい。

(ご意見を踏まえた今後の方向性)

- ・来年度以降も継続して、関連講演会の開催をおこない、市内外に対して幅広く周知を図る。
- ・宇土デジタルミュージアムを活用し、啓発活動に努める。
- ・過去の講演会を書籍化し、講演会に参加できなかった方へも講演会の内容を通じて、より深く小西行長の人物について知っていただく。
- ・本市の財政的に資料館建設は厳しいが、今後も小西行長関連資料の収集に努め、「うと学資料室」で公開するなど、資料館に匹敵する機能を持たせ、行長研究の拠点となるよう努める。

教育委員会としての  
今後の方向性

拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止

平成28年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	大太鼓活用事業	担当課	文化課
事業目的	江戸時代から残る「雨乞い大太鼓」は、日本を代表する民俗文化財の一つである。この大太鼓を活用して、市民の誇りの再生、地域社会における連携の緊密化、市民意識の高揚と産業振興を図ることを目的としている(※平成9年度『宇土雨乞い大太鼓活用事業基本計画書』より)。		
事業内容	<p>○「宇土大太鼓フェスティバル」開催助成(補助金)及び関連業務等の支援 主催:宇土大太鼓フェスティバル実行委員会</p> <p>○「太鼓教室」の開催、主催:文化課、会場:宇土市民会館、4月から毎週火曜日に練習、大太鼓フェスティバル・地蔵まつりで成果を発表する。</p>		
27年度の進捗状況	<p>○「第30回宇土大太鼓フェスティバル」開催日:平成27年8月2日(土)14:30~21:00、会場:宇土市民会館 参加者・来館者数:延べ2,300名</p> <p>○上記事業へ800千円の補助を行った。参加団体:保育園3、高校4、地区保存会6、太鼓愛好会3、その他4計20団体の太鼓演奏があった。また網田地区からフェスティバルへの参加が復活した。</p> <p>○太鼓教室を開催し、小学生34名と大人1名の受講。大太鼓フェスティバル・地蔵まつりで練習成果を発表した。</p>		
課題・問題点	<p>○平成27年度は30回記念の年であり、宇土市民会館での開催であったので、開始時間を早くし予定時間内で対応できたが、例年の運動公園の場合には、真夏の炎天下での時間確保が難しい(日中の暑い時間帯に開始する必要がある)。</p> <p>○太鼓教室は毎年募集定員を超える申込みがあり、平成27年度は受講希望者54名を抽選で定員の35名に限定したため、希望者全員が受け入れることができなかった。</p>		
予算額・決算額	<p>H25予算額 2,110 千円</p> <p>H26予算額 1,186 千円</p> <p>H27予算額 1,191 千円</p>	<p>H25決算額 1,939 千円</p> <p>H26決算額 1,121 千円</p> <p>H27決算額 1,106 千円</p>	
担当課 自己評価	<p>○平成27年度で30回目の開催となり、網田地区保存会の復活もあり、参加団体も増加傾向にある。今後とも助成を継続していく必要がある。</p> <p>○太鼓教室も毎年定員をオーバーする希望者があり、今後とも継続していく。全員が受講できるよう検討を要する。</p>		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の充実を望む。</li> <li>・大太鼓は、ふるさとのたからであり、次の世代に引き継ぎ、伝えてゆく必要があるので大太鼓教室は全員参加できるように予算措置をお願いする。</li> <li>・ふるさとの再生とまちづくりに活かし地域の絆を深めるために大いに活用すべきである。</li> <li>・可能であれば教室申込者全員が、太鼓教室を受けられるようにしていただきたい。</li> <li>・事業目的にあった成果がでるように、事業を実施して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			

・事業目的である「市民の誇りの再生や地域社会における連携・市民意識の向上」に向けて、官民協働で今後も本事業を推進する。  
・太鼓教室に関しては、希望者全員が受講できるよう努める。

教育委員会としての  
今後の方向性

拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止

平成28年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	宇土市歴史的資料保存活用事業		担当課	文化課
事業目的	宇土市史編纂事業等で収集した歴史的・文化的価値を有する資料を、市民が気軽に活用できるための環境整備を行うとともに、市民の方々が歴史・文化により一層興味を持ってもらうよう、これらの資料の持つ価値をPRし、地域活動等につなげていくため事業を実施する。			
事業内容	○市史編纂事業で収集した歴史的価値を有する膨大な資料を適切に保存・整理するとともに、更なる郷土資料の収集を行う。 ○収集した資料を専門的見地から調査・研究し、「うと学資料室」において、市民向けに積極的に公開し、活用の推進を図る。			
27年度の進捗状況	○宇土市歴史資料保存活用事業運営委員会を開催(6月・11月)。 ○古文書史料の調査および整理作業を実施(6月～3月)。 ○平成26年度に調査を実施した山田文庫の展覧会「知られざる宇土の名宝」展を宇土市立図書館内郷土資料室で開催(10月31日～11月29日、来場者約600名)。 ○歴史刊行物として、『うと学研究第37号』(小西行長基礎資料集—補遺—)と『再検証 小西行長—謎の武将が今よみがえる—』(第2集)を刊行。 ○「宇土藩主細川家旧蔵消息集」(古文書)を購入。 ○デジタルミュージアムの内容更新を積極的に行った。 ○旧高月邸において、「夏休み！わくわく体験 うと寺子屋」を3日間開催し、勾玉づくりや馬門石彫刻体験、轟泉水道のガンゼキづくりなどの体験教室を実施(8月、参加者延べ97名)。 ○「はじめての古文書講座」(前期・後期各10回)を開催(6月～3月、受講者延べ182名)。 ○「うと学資料室」の利用促進を目的として「うと学卓話」を2回開催(11月・3月、受講者37名)。			
課題・問題点	○未整理の資料が多く残っており、できるだけ早く整理作業を進め、より多くの資料を公開できる環境を整える必要がある。 ○資料の寄贈件数が年々減少している。個人宅等で適切に保存していただければよいが、個人所有の資料は廃棄される可能性があるため、今後積極的に資料保存に対する啓発を行い、寄贈を促したり、各家で適切に保存していただけるよう周知する必要がある。 ○資料を適切に収蔵・保管する施設が少ないため、今後は空き施設の確保や現行の収蔵環境改善に取り組む必要がある。			
予算額・決算額	H25予算額 14,203千円 H26予算額 4,082千円 H27予算額 4,852千円	H25決算額 13,087千円 H26決算額 3,474千円 H27決算額 3,956千円		
担当課 自己評価	○宇土市史編纂事業にて収集した歴史的・文化的価値を有する資料を市民が利活用できるよう「うと学資料室」を平成26年度に開設。利用者は増加傾向にあり、「うと学資料室」が市民に認知されつつある。今後も教育委員会所蔵資料を中心に公開対象資料を増やし、利便性を向上させる必要がある。 ○これまで各種講座や卓話を開催し、「うと学資料室」の利用促進及び歴史的資料の活用を図っている。毎回多くの方に参加していただいているが、「市民が自ら学ぶ場」を提供するとともに、幅広いニーズに対応するため、今後も継続して開催し、市民の学習意欲の向上に貢献しなければならない。			
(外部評価委員からいただいたご意見)				

- ・「広報紙」等を活用し、事業の啓発を
- ・「うと学資料館」の啓発と資料の充実を図ってほしい。郷土の文化や財産の保存と平行して市民への呼びかけや公開を促進してほしい。
- ・史跡や遺跡と同じように文化のバロメーターとして、資料等は後世に伝えると同時に市民にも広く伝えるようにしていくべきである。
- ・事業目的にあった成果がでるように、事業を実施して頂きたい。

(ご意見を踏まえた今後の方向性)

- ・毎月の『広報うと』に「うと学だより」を掲載し、宇土に残された文化財や歴史資料を紹介し、宇土の歴史を市民に周知するとともに、「うと学資料室」の利用を促す。
- ・古文書講座等の開催を通じて、市民に古文書や歴史資料の重要性を伝え、資料保存の担い手を育成する。
- ・資料整理を進め、公開資料の点数を増やすよう努める。
- ・市民への啓発をおこない、家にある(眠っている)古い歴史資料の適切な保存と、必要に応じては市への寄贈を促す。
- ・『うと学研究』を毎年刊行し、宇土の文化財や歴史資料の研究成果を市民に公開する。

教育委員会としての  
今後の方向性

拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止

平成28年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	文化的景観整備事業	担当課	文化課
事業目的	日本名水百選・轟水源から取水し、宇土市中心部を通る轟泉水道は、現役上水道としては日本最古のものであり、宇土市の文化財に指定されている。今後は、国指定文化財を目指して保存活用を図るとともに、本水道を核として宇土の歴史的街並みを整備し、歴史的・文化的資源を活かしたまちづくりにつなげることを目的とする。		
事業内容	<p>○轟泉水道と武家屋敷(旧高月邸)が一体となった国指定を目指し、指定後に本格的な保存整備工事を実施する。</p> <p>○古文書や土木史・建築史等の専門家の指導助言を受けて本格的な調査を実施して学術的な価値を明らかにし、その成果を調査報告書として刊行する。</p> <p>○国指定後は、適切に保存管理を行うとともに、整備活用を通じて宇土市中心部のまちづくりの歴史的な柱として市内外からの観光客誘致や市民の憩いの空間としての場を確保する。</p>		
27年度の進捗状況	<p>○旧高月邸の整備活用を図るため、障子・ふすま等の建具工事や畳替え等を行い、地域史学習や古文書講座・視制作講座等の場としての環境を整備した。</p> <p>○旧高月邸の維持管理を目的として、長年の風雨等にさらされ修繕が必要な旧高月邸の屋根や水道ポンプ等を改修した。</p> <p>○平成27年8月6～8日の3日間にわたり、馬門石の彫刻体験や轟泉水道の修理で使用する“ガンゼキ”を製作する等、6つの講座が体験できる「うと寺子屋」を旧高月邸で実施(参加者延べ97名)。</p>		
課題・問題点	<p>○旧高月邸は熊本地震で被災しており、現在、屋根部分を中心に応急措置済みではあるが、室内を利用した講座等は実施できない状態であり、今後、災害復旧工事を実施する必要がある。</p> <p>○国指定の条件として、文化財としての本質的価値を明確にする必要があり、そのためには、専門家による詳細な調査研究が急務である。</p>		
予算額・決算額	<p>H25予算額 千円</p> <p>H26予算額 37,309千円</p> <p>H27予算額 2,868千円</p>	<p>H25決算額 千円</p> <p>H26決算額 35,681千円</p> <p>H27決算額 2,036千円</p>	
担当課 自己評価	旧高月邸の土地と建物を平成26年度に取得後、様々な講座等で活用することで、市民の注目やニーズも高まってきた。今後は、専門家等で構成される「旧高月邸保存活用検討委員会」を立ち上げ、本委員会の指導・助言に基づき、文化財的価値を損ねることなく、早期の復旧に向けた取組みを進めたい。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の充実を期待する。</li> <li>・文化財は郷土の財産であるので活用と充実をお願いする。</li> <li>・単独的な文化財の活用でなく、一連の財産として観光やまちづくりに活かし整備計画をしてほしい。</li> <li>・県外より「海の干潟」の写真撮影者が多数来られる。歴史的にも第12代景行天皇が親征のとき、あまりの干潟の美しさに御輿を止めて見入ったことから「御輿来」と呼ばれている伝説もあり、文化的景観の価値もある。</li> <li>・事業目的にあった成果がでるように、事業を実施して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			

- ・旧高月邸は熊本地震により大きな被害を受け、現在、雨漏り防止のためブルーシートで屋根を覆っている状態である。平成29年度内には復旧工事を完了する予定。
- ・専門家等で構成される「旧高月邸保存活用検討委員会」の指導・助言に基づき、文化財的価値を損ねることなく、早期の復旧を進める。また、復旧と並行して轟泉水道を含めた古文書等の本格的な調査に着手し、その成果を調査報告書として刊行するための準備を進める。
- ・将来的な国文化財指定を目指すとともに、観光やまちづくりに活かすための方策を検討する。

教育委員会としての  
今後の方向性

拡充
 ・
  維持
 ・
  要改善
 ・
  廃止

平成28年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	図書館蔵書充実事業	担当課	図書館
事業目的	市民の知識・学習の拠点として、図書館蔵書の充実を図ることにより、市民サービスの向上を目指す。併せて、元気な宇土市づくりに貢献する。		
事業内容	年間を通じて、図書の購入を行い、蔵書及びサービスの充実を図る。		
27年度の進捗状況	平成27年度の、図書購入費は400万円。27年度中の購入冊数は2,289冊。		
課題・問題点	当館の課題として、施設の老朽化により、現代的な書架の配置が難しい。限られた予算で市民のニーズに応じられるような書架の配置を研究し、蔵書及びサービスの充実を図ることが必要である。		
予算額・決算額	H25予算額 4,002千円 H26予算額 4,411千円 H27予算額 4,000千円	H25決算額 4,002千円 H26決算額 4,411千円 H27決算額 4,000千円	
担当課 自己評価	予算の範囲内での活動は出来ているが、更に予算の拡充を行い、図書館サービスの更なる充実を図る必要がある。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者、貸本、来館者等の増加を図る工夫を期待する(援助、支援、対応等)。</li> <li>・図書館以外に蔵書があり、市民が利用できる場所はあるか。</li> <li>・若い人の活字 離れが続いている中、来館者のニーズに答えられるよう予算や配置計画が必要である。</li> <li>・震災後、利用者数の減少が考えられるが蔵書については、御苦労されていることと思うが、リクエストを取る等、努力されていることに感謝する。なお、一層の充実をお願いします。</li> <li>・地震により「図書館」も被害を受けて安全ではないので市庁舎の再建に伴い「図書館」も一緒に考えるのがよい。「図書館が市をかえる」ようになることを。</li> <li>・事業目的にあった成果がでるように、事業を実施して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
<p>外部評価委員から頂いたご意見で利用者、貸出、来館者等の増加を図っていきます。さらにアンケート等により引き続き多世代のニーズに応える蔵書の充実に努めます。</p> <p>また積極的な情報発信を行い、多くの方に利用される図書館を目標にしたいと考えております。</p> <p>建物に関しては、現在の検討段階では、震災前の計画から変更になり、いまの図書館を利用する計画になっております。</p> <p>市民の皆さまが安心して利用できるよう耐震等の整備をすすめます。これからも事業目的にあった成果が出せるように事業を実施していく所存です。</p>			
教育委員会としての 今後の方向性	<div style="text-align: center;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">拡充</span> ・ 維持 ・ 要改善 ・ 廃止         </div>		



平成28年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	緑川地区グラウンド排水状況改善事業	担当課	スポーツ振興課
事業目的	緑川地区グラウンド排水機能を改善するため		
事業内容	緑川地区グラウンドの排水機能を改善するためにU字側溝及び一部グレーチングをするもの		
27年度の進捗状況	緑川地区グラウンド排水側溝敷設工事で平成27年12月に完成。		
課題・問題点	緑川地区グラウンドの側溝に土砂が堆積し排水ができず、大雨時にはグラウンドにたまった雨水が近隣の宅地に流れ込み、土嚢を積んで対応していたが、地元からの陳情も出ており、住民が迷惑している。		
予算額・決算額	H25予算額 千円 H26予算額 千円 H27予算額 2,572千円	H25決算額 千円 H26決算額 千円 H27決算額 1,910千円	
担当課 自己評価	排水側溝敷設後、排水機能は改善された。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設維持管理面は災害時等に、使用活用できるように常に改修、改善に努めてほしい。</li> <li>・地域や近隣住民に対する配慮と、早急な対応に感謝します。</li> <li>・事業目的にあった成果がでるように、事業を実施して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
市民の皆様が利用しやすい施設管理を目指すとともに素早い対応を心がけます。			
教育委員会としての 今後の方向性	拡 充 ・ 維 持 ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

平成28年度 宇土市教育委員会事務事業点検・評価シート

事業名	給食センター施設整備事業	担当課	給食センター
事業目的	施設・設備の点検を行い、年次計画的に優先度を決め、衛生管理の徹底や給食業務の充実を図るため、施設整備を行う。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食器洗浄機購入(取替)</li> <li>・給食センター内配管・電気設備改修工事</li> </ul>		
27年度の進捗状況	予定どおり実施。		
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設は築年数37年を経過し、震災の影響もあり、雨漏りが多発。</li> <li>・設備も使用頻度が多く、損傷や破損が出ている。</li> </ul>		
予算額・決算額	H25予算額 18,617千円 H26予算額 20,437千円 H27予算額 49,163千円	H25決算額 16,454千円 H26決算額 20,314千円 H27決算額 44,164千円	
担当課 自己評価	平成27年度においては予定どおり実施できたが、平成28年度は予算が確保できなかった、現時点で調理機器等の不具合等が、発生しているので、計画的な予算確保による整備が行えるようにしたい。		
(外部評価委員からいただいたご意見)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・安心な給食のため努めていただき、感謝します。</li> <li>・施設・整備の老朽化対策は万全を期してください。</li> <li>・予算面に配慮し計画的に整備計画をしてほしい。常に安全と衛生面を最優先した運営をお願いしたい。</li> <li>・安心・安全な食事を提供されており、今後も設備等の維持管理に努めてほしいと思います。</li> <li>・子どもたちが、毎日、おいしい昼食を食べられるようお願いします。</li> <li>・「施設整備等の不良箇所」の早急な修理は必要である。</li> <li>・事業目的にあった成果がでるように、事業を実施して頂きたい。</li> </ul>			
(ご意見を踏まえた今後の方向性)			
給食センターは昭和57年に開設し運営していますので、施設及び設備の老朽化が進んでおります。今後は、美味しく安心・安全な給食を作るためには施設及び設備の点検を行い、衛生管理の徹底や給食業務の充実を図るため、年次計画的に優先度を決めて施設整備を行っていきます。			
教育委員会としての 今後の方向性	拡 充 ・ <b>維 持</b> ・ 要 改 善 ・ 廃 止		

### Ⅲ 教育委員会の活動状況

#### 1 委員会議の開催状況

宇土市教育委員会の会議は原則として公開で、毎月1回の定例会のほか、必要に応じ臨時会を開催しています。

この会議において、教育長と教育委員が教育行政の運営の基本方針や教育委員会の規則の制定改廃など、会議において議決を要する事項について審議・決定を行うとともに、重要事項について事務局から報告を受けています。

平成27年度の教育委員会会議の開催状況は次のとおりです。

期日	場所	付議事件
平成27年4月14日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	(議決事項) 平成27年度宇土市学校教育努力目標について 平成27年度宇土市幼稚園教育努力目標について 平成27年度宇土市生涯学習努力目標について 平成27年度宇土市人権教育推進努力目標について 平成27年度宇土市文化振興努力目標について 平成27年度宇土市立図書館努力目標について 平成27年度宇土市社会体育努力目標について 平成27年度宇土市学校給食センター努力目標について 平成27年度宇土市立小中学校教務主任等の任命について 平成27年度学校評議員の委嘱について 平成27年度幼稚園評議員の委嘱について 宇土市歴史的資料保存活用事業運営委員会委員の委嘱について 教育功労者の表彰について スポーツ功労者の表彰について
平成27年5月12日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	(議決事項) 学校運営協議会の指定及び学校運営協議会委員の任命について(花園小) 学校運営協議会の指定及び学校運営協議会委員の任命について(走瀧小) 学校運営協議会の指定及び学校運営協議会委員の任命について(緑川小) 学校運営協議会の指定及び学校運営協議会委員の任命について(網津小) 学校運営協議会の指定及び学校運営協議会委員の任命について(住吉中) 学校運営協議会の指定及び学校運営協議会委員の任命について(網田小・網田中) 平成27年度「宇土市小中連携推進に関する実践研究校」の指定について 宇土市社会教育委員の委嘱について 宇土市公民館運営審議会委員の委嘱について 宇土市立図書館協議会委員の任命について 平成27年度宇土市一般会計補正予算(6月)について 平成27年度宇土市奨学生新規採用者の選考について 小学校における運動部活動の指針及び中学校における運動部活動の指針につ

		いて
平成27年6月11日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	(議決事項) 専決処分の報告及び承認を求めることについて 宇土市小学校部活動社会体育移行検討委員会委員の委嘱について 宇土市立幼稚園の保育料減免に関する規則について 平成27年度学校薬剤師の委嘱について 宇土市教育支援委員の委嘱について 宇土市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 平成27年度宇土市一般会計補正予算(6月)について
平成27年7月7日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	(議決事項) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係規則の整理に関する規則について
平成27年8月11日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	(議決事項) 平成27年度宇土市心の教室相談員の委嘱について 宇土市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 宇土市学校給食専門委員会委員の委嘱について 平成28年度使用宇土市立中学校教科用図書の採択について
平成27年9月8日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	(議決事項) 宇土市教育委員会教育長職務代理者の事務を委任する規則を定めることについて 宇土市教育委員会外部評価委員の委嘱について 平成27年度学校医の委嘱について 宇土市地域コミュニティセンター条例施行規則の一部を改正する規則について 宇土市歴史的資料保存活用事業運営委員会委員の委嘱について 平成27年度宇土市一般会計等補正予算(9月)について 専決処分の報告及び承認を求めることについて 平成27年度宇土市教育支援委員会答申について 平成27年度第1回教育支援委員会にかかる就学答申について
平成27年10月7日 (定例会)	教育委員会 2階会議室	(議決事項) 専決処分の報告及び承認を求めることについて 宇土市青少年センター指導員の任命について 専決処分の報告及び承認を求めることについて 平成27年度宇土市一般会計補正予算(9月)について 専決処分の報告及び承認を求めることについて 平成27年度宇土市教育支援委員会答申について 平成27年度第2回教育支援委員会にかかる就学答申について

<p>平成27年11月9日 (定例会)</p>	<p>教育委員会 2階会議室</p>	<p>(議決事項) 宇土市奨学基金条例及び宇土市奨学基金特別会計条例の一部を改正する条例について 宇土市奨学基金条例施行規則の一部を改正する規則について 宇土市幼稚園条例の一部を改正する条例について 指定管理者の指定について(網津公民館網引分館) 指定管理者の指定について(宇土市民会館) 平成27年度宇土市一般会計補正予算(12月)について 宇土市教育委員会の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果について 平成27年度第1回臨時的教育支援委員会にかかる就学答申について</p>
<p>平成27年12月10日 (定例会)</p>	<p>教育委員会 2階会議室</p>	<p>(議決事項) 宇土市入学準備祝金給付基金条例について 宇土市入学準備祝金給付基金条例施行規則について 宇土市入学準備祝金給付基金特別会計条例について 宇土市立幼稚園保育料に関する規則について 宇土市文化財保護審議会委員の委嘱について 平成27年度宇土市一般会計補正予算(12月)について 平成27年度第2回臨時教育支援委員会にかかる就学答申について</p>
<p>平成28年1月12日 (定例会)</p>	<p>教育委員会 2階会議室</p>	<p>(議決事項) 平成27年度第2回臨時教育支援委員会にかかる就学答申について</p>
<p>平成28年2月15日 (定例会)</p>	<p>教育委員会 2階会議室</p>	<p>(議決事項) 宇土市いじめ問題対策連絡協議会設置条例について 宇土市いじめ防止等対策委員会設置条例について 宇土市心の教室相談員設置規則の一部を改正する規則について 宇土市立幼稚園規則の一部を改正する規則について 宇土市多目的研修会施設等の設置及び管理に関する条例及び宇土市走潟地区体育館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について 宇土市重要遺跡保存活用検討委員会設置条例の一部を改正する条例について 児童・生徒の表彰について 平成27年度第4回臨時教育委員会にかかる就学答申について 平成27年度宇土市一般会計補正予算(3月)について</p>
<p>平成28年3月10日 (定例会)</p>	<p>教育委員会 2階会議室</p>	<p>(議決事項) 平成28年度宇土市立学校内科医, 眼科医, 耳鼻科医, 歯科医及び薬剤師の委嘱について 平成28年度学校産業医の委嘱について 平成28年度宇土市学校教育指導員の委嘱について 宇土市社会教育指導員の委嘱について 宇土市青少年センター指導員の任命について</p>

		宇土市轟公民館長の委嘱について 学校給食センター給食用物資納入業者の選定について 学校給食の給食費について 平成27年度宇土市一般会計補正予算（3月）について 平成28年度宇土市一般会計予算について 平成28年度宇土市入学準備祝金給付基金特別会計予算について
--	--	--

## 2 総合教育会議

期日	場所	協議事項等
平成27年11月10日	市役所別館 2階会議室	（審議事項） 宇土市総合教育会議の設置及び運営に関する要綱（案）について （協議事項） 教育に関する施策の大綱について
平成28年2月17日	市役所別館 2階会議室	（協議事項） 地域における学校支援について（社会教育関係） 宇土市小学校運動部活動社会体育移行検討委員会の議題等について

## 3 その他の活動状況

教育委員は、教育委員会の会議に出席するほか、適宜、各種会議、関係行事へ出席するなどしています。

平成27年度における、その主な活動は次のとおりです。

- 宇城市町教育委員全員研修会
- 教育委員行政視察研修
- 熊本縣市町村教育委員大会
- 学校訪問
- 各小中学校入学式・卒業式
- 各幼稚園運動会・各小学校運動会・各中学校体育祭
- 成人式典
- 学校給食試食会
- その他各種イベント事業への出席

## 【宇土市教育委員会 教育長・教育委員名簿】

(平成28年11月1日現在)

職 名	氏 名	任 期
教 育 長	おおた やすゆき 太田 耕幸	平成 27.10.1 ~ 平成 30.9.30
教育長職務代理者	いよ とみひさ 伊豫 富久	平成 27.10.1 ~ 平成 30.9.30
委 員	いわむら としあき 岩村 俊明	平成 24.12.24 ~ 平成 28.12.23
委 員	きむら みねこ 木村 峰子	平成 25.10.15 ~ 平成 29.10.14
委 員	ながお たかし 長尾 忠	平成 24.12.24 ~ 平成 28.12.23